**今後の栽培管理のポイント～～**

令和7年8月6日

仙台地方米づくり推進本部

* 出穂期以降20日の間に、平均気温27℃以上の高温が連続する場合、白未熟粒が多発し品質が著しく低下する危険性があります。
* 降水量が少なく用水量が少ない地域等では、水温や地温の上昇を抑止する方法として、**「」が有効**です。

※気温より水温が高い場合、「かけ流し」は高温障害を助長する危険性があります。

**飽水管理のメリット**

根の活力維持

高温登熟対策

地温の上昇抑制

節水対策

　・地温の上昇が抑制されると稲体の温度が夜間に下がるため、光合成により作られた養分が籾に転流しやすくなり、白未熟粒や胴割粒の発生を抑制することができます。

　・根腐れや倒伏の危険性が高い水田では、有効茎確保後から出穂期にも実施することで根の活性を高めることができます。

　・登熟良化のためには、出穂期以降30日程度飽水管理を継続しましょう

**飽水管理の方法**

1. 水尻を閉め、畦畔から漏水がないか確認する。

　　田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。

1. 水を止めたら水尻を閉めたまま自然落水する。

　　水田の足跡に水がなくなる頃、又は、番水の

　　タイミングで次の水を入れる。

（目安は３～５日おき）

　出稲期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。

管理を徹底し、土壌の湿潤状態を保ちましょう。